

地方独立行政法人山口県立病院機構評価委員会（第32回）の概要

1 開催日時

令和2年7月21日（火） 14:00から15:45まで

2 開催場所

山口県庁本館棟4階 共用第4会議室

3 出席者

評価委員会委員： 5人

事務局： 4人

法人： 13人

4 内容

(1) 県健康福祉部理事挨拶

(2) 議事

令和元年度における法人の業務の実績に関する評価について

- ・ 事務局から資料1及び資料2について、法人から資料3及び資料4について説明

主な質疑応答・意見

〔●委員 □法人〕

- 令和元年度の業務実績の自己評価結果について、病院機構としてどのように受け止めているか。
- 令和元年度の業務実績については、医業収益が前年度と比較して約7億円増加するなど、経営努力を行った結果、経常収支の黒字を維持することができたことから、4つの大項目の一つである「財務内容の改善」で評点がaとなったこと、また、県民へ提供する医療などに関する項目である「業務の質の向上」の評点がaとなるなど、4つの大項目すべてで評点がa評価となったことから、中期計画の進捗は「順調」、A評価と自己評価したところであり、当病院機構としては、令和元年度の計画を十分に遂行できたと認識している。
- 令和元年度の取組の中で、医療の質の向上の観点、又は、経営基盤強化の観点などから、特に重要なものとしてどのようなものがあるか。
- 医療の質の向上の観点からは、より正確な画像情報を得る事が出来るバイプレーン装置を設置した心血管カテーテル治療室を整備したこと、また、血液浄化療法センターを整備し、重症な透析患者に対応するとと

もに、透析病床を10床から15床へ増床している。また、看護師の確保、育成も重要であるため、教育カリキュラムを見直すなど、看護師の教育指導の充実を図っている。また、経営基盤の強化の観点からは、専門的な知見を有するコンサルタントと職員が協働し、新規入院患者数の増加や病床利用率の向上に取り組んだ。

- 令和元年度の実績を前年度対比で見るとよい結果が出ているが、計画対比で見ると収益側も費用側もマイナスになっている。計画の立て方はどのようにしているか。
- 計画に関しては、職員が充足すればこれだけ稼げるという観点で作っている。例えば、看護師が充足すればICUが100%稼働して、これだけ収益が上がるという観点で、必要人役で必要な給与費を見積もった上で、それに対して収益が見込める額で見積もっている。昨今、看護師不足ということがあって、計画と実際値では職員の人数差が生まれたところで差が出てしまうところがある。
- 看護師の確保が難しい前提があると思うが、計画の立て方はこれでいいのか。計画と比べて悪くなっているが、黒字だから良いというのでいいのか。
- なかなか計画どおりにいかないこともある。人数の予測がたてば収益は出るが、診療報酬の改定があれば単価自体が変わってくるため難しいという面もある。大きく計画が違うのであれば理由を述べてもいいかもしれない。
- 確実に患者の社会復帰のところが促進されていると思う。例えば、高次脳機能障害の患者に対する山口障害者職業センター等と連携した復職支援、心神喪失者等医療観察法に係る患者に対する社会復帰、がん罹患し離職している患者に対する徳山ハローワークとの就職支援など、社会復帰等の数字が出ている。主な成果という記述が「取り組んだ」ということでまとめられているが、アウトカムして数字が出ているのでそちらをなんとか表に出すような報告になると、確実にこれが進んでいるということが伝わるのではないか。
- 新型コロナウイルス感染症に対する対応について、事業継続計画（BCP）の策定状況はどうか。
- 3月に新型コロナウイルス感染症対応の事業継続計画を策定している。
- 材料費で薬物療法が増加している。お薬手帳を持っているし、重複の

投与はないと思う。ジェネリックを使い始めて材料費は下がっていると思っていれば上がっている。この辺はどうなっているのか。

- 医薬品が増えている要因は、ジェネリックといった一般的な薬よりは、がんなどの抗がん剤やファブリー病という代謝関係の病気の薬など最新の希少な医薬品で増えている。

- ICUの他、血液浄化療法センター、てんかんに対する高密度脳波計や脳波ビデオ同時記録装置といったものはこの病院にもあるといったようなものではないと思うが、県立病院ではこういう治療ができるというような情報は開示しているのか。

- 独法化しているので、もう少し高度医療をやっていることなど伝えていくべきではないか。

- 県立病院なので民間レベルのPRが出来にくいところもあるが、民間のテレビ会社と契約して特番を流してPR・啓蒙をしている。

- 新人看護師の離職の要因をどのように分析しているか。

- 新人看護師が離職する要因としては、上司とのコミュニケーション不足や業務の負担大ということがあると考える。そこで、若手看護師へのメンタルサポートとして面談をして、辞める前の小さな芽の段階で原因を解決するよう努力している。また、自分の看護が正しいかという不安などに対しては、小さな承認の積み重ねで次の頑張りにつなげることなども行っている。

(3) その他

- ・ 次回の評価委員会は、8月7日（金）の午後2時から開催する。